

IV-38

水とのふれあいの促進に関する問題の構造化

八戸工業高等専門学校 正員 今野恵喜

1. はじめに

住民によりよい水辺環境を提供する上で、その問題の構造を把握し、整備に反映させていくことは重要なことである。本研究では、青森県の川・海・湖を通した水とのふれあいの促進に関する問題の構造を明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

調査は、青森県67市町村の水辺環境づくりの担当者に対して実施した（平成8年12月、郵便配布・回収法）。調査内容は各評価要因の重要性・早急性・直接影響を及ぼす要因とその度合い、そして現在の整備状況や問題点などである。配布67票、回収45票（川43票・海17票・湖14票）で、回収率67.2%であった。尚、評価要因は表-1に示す14であり、調査票では、各要因に定義付けをし、被験者の認識に差異が生じないようにした。

3. 構造化手法と手順

構造化手法はDEMATEL法を採用した。問題構造のパターンを把握して分析することを考え、まず、各地域別にDEMATEL分析を行い、次に、得られた影響度（ある要因が他のすべての要因に与える影響）、被影響度（ある要因が他のすべての要因から受ける影響）そして、重要度（影響度と被影響度の和）、関連度（影響度と被影響度の差）をデータとしてクラスター分析を行った。川は4、海は3、湖は3のグループに分けられるので、そこで、さらにグループごとにDEMATEL分析を行い平均構造を把握した。

4. 水とのふれあいの促進に関する問題の構造化

4.1川について

該当する地域の多いグループ4（20市町村）を図-1・2に示す。影響する要因が少ないものの、「2. レクリエーション施設整備（キーポイント）」と「6. 環境保全との調和」に力を入れると「1. 川を利用した水とのふれあいの促進」につながると考えられる。他のグループ1（7市町村）は、「6. 環境保全との調和」、「7. 交通施設の整備」、「9. レクリエーション施設整備のための財政の確立」から、「2. レクリエーション施設整備」、「11. 住民と親水空間のコミュニケーション（キーポイント）」、「12. 水とのふれあいのためのイベント」を通して、また、グループ2（15町村）は、「2. レクリエーション施設整備」、「6. 環境保全との調和」から、「8. 景観整備（キーポイント）」、「11. 住民と親水空間のコミュニケーション」を通して、水とのふれあいが促進されると考えられる。さらに、グループ3（1市）は、影響を与える側の要因が複雑に影響しているので、全体的に力を入れていくことで、水とのふれあいの促進につながると考えられる。中でも影響度の高い「3. 船の運航環境整備」、「9. レクリエーション施設整備のための財政の確立」、「14. 水とのふれあいのための案内人」に、力を入れると良いと考えられる。このグループでは、「12. 水とのふれあいのためのイベント」がキーポイントになる。

4.2海について

該当する地域の多いグループ3（9町村）を図-3・4に示す。影響度の高い「7. 交通施設の整備」、「9. レクリエーション施設整備のための財政の確立」に力を入れると、「2. レクリエーション施設整備（キーポイント）」、「11. 住民と親水空間のコミュニケーション」、「12. 水とのふれあいのためのイベント」にも影響し、「1. 海を利用した水とのふれあいの促進」につながると考えられる。他のグループ1（7市町村）は、「7. 交通施設の整備」、「9. レクリエーション施設整備のための財政の確立」から、「2. レクリエーシ

表-1 評価要因

1. 水とのふれあいの促進
2. レクリエーション施設整備
3. 船の運航環境整備
4. 安全対策のための整備
5. 護岸整備
6. 環境保全との調和
7. 交通施設の整備
8. 景観整備
9. レクリエーション施設整備のための財政の確立
10. 整備のための技術開発
11. 住民と親水空間のコミュニケーション
12. 水とのふれあいのためのイベント
13. 水とのふれあいのための情報提供
14. 水とのふれあいのための案内人

「3. 船の運航環境整備」、「7. 交通施設の整備」を通して、水とのふれあいの促進につながると考えられる。このグループは、「11. 住民と親水空間のコミュニケーション」がキーポイントになる。

4. 3湖について

該当する地域の多かったグループ1 (10市町村) を図-5・6に示す。「2. レクリエーション施設整備 (キーポイント)」、「9. レクリエーション施設整備のための財政の確立」に力を入れている、「1. 湖を利用した水とのふれあいの促進」につ

ながると考えられる。他のグループ2 (3市村) は、「5. 護岸整備」、「7. 交通施設の整備」を通して、また、グループ3 (1市) は、影響度が高く、ほとんどの評価要因に影響している「9. レクリエーション施設整備のための財政の確立」から、水とのふれあいの促進につながると考えられる。このグループは、「12. 水とのふれあいのためのイベント」がキーポイントになる。

5. おわりに

今後の水辺環境づくりにおいては、共通の問題構造を持つ地域の連携も重要である。最後に調査にご協力くださった自治体の担当者の方々に感謝いたします。

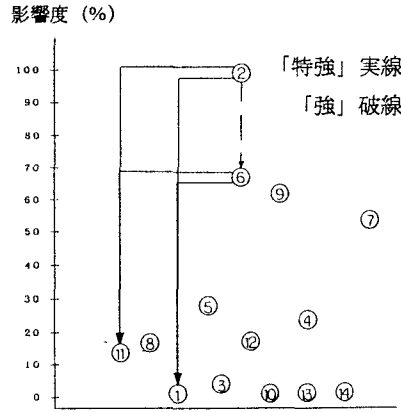


図-1 影響度による川グループ4の平均構造

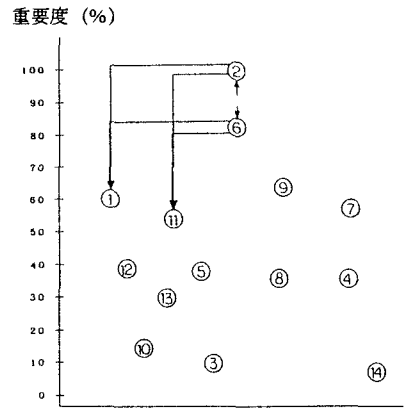


図-2 重要度による川グループ4の平均構造

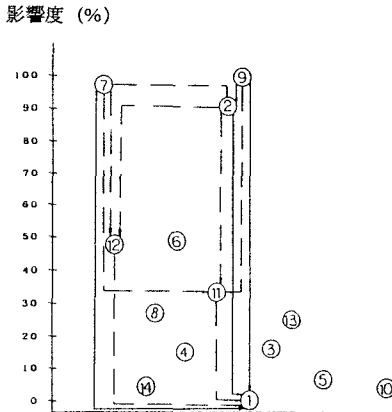


図-3 影響度による海グループ3の平均構造

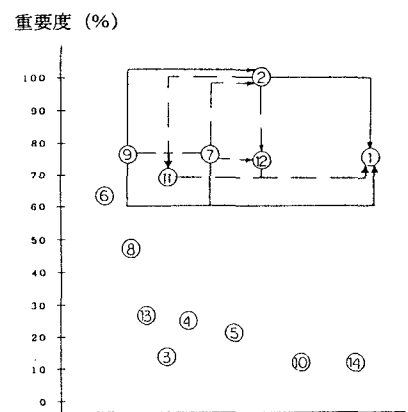


図-4 重要度による海グループ3の平均構造

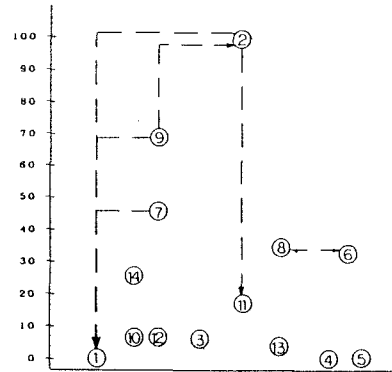


図-5 影響度による湖グループ1の平均構造

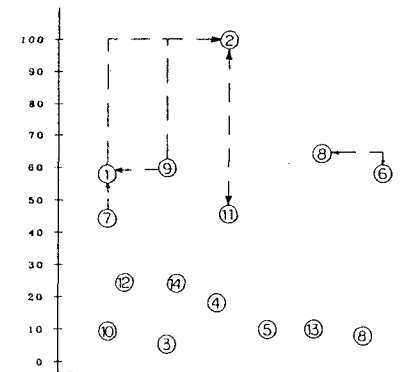


図-6 重要度による湖グループ1の平均構造

また、卒業研究として取り組んだ、柴崎俊宏君、高島淳也君の努力を称えたい。